

美濃派の俳諧師



たかぎひやくちやぼう
高木百茶坊
-1790

大野政田村(現在の本巣市政田)の庄屋の家に生まれる。本名を重助といい、百茶坊
戀古または修篁亭と称す。天明 2 年には西国に行脚し、「西国旅行記」を記す。余浄寺
門前には句碑が建てられ、百茶坊俳句の掛け軸は市の文化財に指定されている。

「早乙女や抱く子につとう蓑の雫」(余浄寺句碑)